

キッズフェスタ 2023 に参加して

山内 亜紗美

神奈川県リハビリテーション病院 リハビリテーション部 理学療法科

1. はじめに

2023年4月15～16日にTRC東京流通センターで開催されたキッズフェスタに参加した。去年や一昨年に比べ今年は出展社・出展品目も増え、来場者数は二日間で7,883人と去年より1,000人以上も多かった。会場は専門職、エンジニア、学校関係者、当事者やその家族などでとても賑わっていた。キッズフェスタへの参加は、新しいものとの出会いや業者さんとの情報交換の場にもなる。普段から小児の理学療法を行うなかで福祉用具の相談や作製に携わることも多いことから、数多くの福祉機器が集まるキッズフェスタは魅力的だ。



図1 会場

2. 姿勢保持具・腹臥位クッションについて

日中を車いすで過ごす事が多い小児にとって、車いすから降りての休息や、腹臥位で身体を伸ばす時間は重要である。神奈川の支援学校などでは腹臥位を取る際、ありあわせのクッションやタオルで対応している。学校側が個人使用のものを購入することは難しい現状もあることから、身体機能的に必要なケースが個人の腹臥位クッションを所有し、それを使用することが出来たら学校生活はさらに快適になるかもしれない。しかし、個人購入をお願いしても、腹臥位クッションは座位保持装置の枠での申請とな

るため、すでにその枠を使っていて、補装具費支給制度で購入出来ない場合もある。座位保持装置の枠が少ないことは今後も課題と感じる。

3. 出展されていた腹臥位クッション

今回出展されていた「であい工房」の「hara-bi」はシンプルな腹臥位クッションでサイズもS～Lまであり、軽量かつ比較的安価な価格設定であった。また、体幹ベルトが持ち手となるため持ち運びがしやすいことも魅力に感じた。既製品のため身体に適合するとは限らないが、タオルなど使って微調整をして使えるため、調整ができる保護者や支援者にはお勧めできる。逆に微調整が難しい施設には不向きかもしれない。これまで既製品のものは何点かあったが、実際のケースでは身体に合うものが少なかった印象がある。既製品では合わずオーダー作製となり自己負担が多くなるケースもいた。その点、今回の「hara-bi」は少し身近に感じられる出展品に感じた。



図2 腹臥位クッション「hara-bi」(であい工房)

4. おわりに

本人や保護者と関わる中で、福祉用具の相談に対してより良い提案をしたいと思う。最新情報や自らの知識をアップデートするためにも福祉用具機器展への参加は今後もとても有意義なものとなるだろう。

神奈川県リハビリテーション病院

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516